

# 鉾山 寄付

町役場の2年間間で約1(約2万3千)の回収率P.O日本入れ

鉾山サイクル協会(埼玉・坂戸市)から、このほど希少な金属代金の40%に当たる9千円余の寄付を受けた。残額は同NPO活動資金を除き、日本ユニセフ協会に寄付。同事業には全国300余の自治体・歯科医院など協力、近隣では十日町市も参加。ユニセフ寄附は約2300万円を越えている。

○入れ歯の金属クロスプ(パネ)歯と歯を繋ぐブリッジ、歯に被せたクラウンなどの金具。これが実は現代の鉾山。金や銀が原料



1年間で2万3千円相当を回収。引き続き不要入れ歯を求めている(町社協で)

料のパラジウム合金など使用、1個当たり希少金属が平均5g(約2500円相当)含まれるという。町社協は同NPOの趣旨に賛同し協力。収益の40%は地元団体に還元、40%をユニセフ寄付、残りが同NPOの活動資金となる。町社協の藤ノ木茂事務局長は「使わなくなった金属付入れ歯を世界の貧しい子どもたち支援のためにも、捨てる前に回収箱へ」と継続して呼びかけている。町社協風(765)3774。

日本初の画期的バイオマスポイラーを開発。牛糞やハンパグなどを食品加工ミートコンパニオン(阿部昌史社長・資本金5700万円)の新築第二工場(十日町市高山)は先月26日から製品加工時に排出するラード(純植物油)とこれまで産業廃棄物として

## 産廃の動物性油脂を燃料化 バイオマスポイラー効果あり

専門業者に処理委託していたフロス(浮上油脂分)を燃料源とするバイオマスポイラー給湯システムを導入。社内リサイクル確立に同社は「加工時に必ず出る

本初」とし大きな関心を集めている。

食肉加工工場では動物性油脂洗浄などで大量の熱湯が必要となる。これまで同社は重油を使い熱湯を作り、年間約1800万円分使用。だが同ポイラー導入で化石バイオマスポイラー活用は日

油脂洗浄などで大量の熱湯が必要となる。これまで同社は重油を使い熱湯を作り、年間約1800万円分使用。だが同ポイラー導入で化石バイオマスポイラー活用は日

廃棄処分していたフロスは燃料化で処分量ゼロと大幅削減に成功。導入で同社は約350トンの廃棄物油脂をバイオマス(生物資源)化。年間960万円の経費削減を実現する見込みだ。

同ポイラーは同社、グリーンエナジー(小海孝雄社長、拓越(関谷克浩社長)の3社で共同開発。原油価格高騰や地球温暖化対策として国が進めるバイオマスタウン構想に今年2月参画の市と連携、国の地域バイオマス利活用交付金(3分の1補助)を受け約570



ミートコンパニオンに導入のバイオマスポイラー(25日)

0万円で開発。ミートコンパニオン・植村光一郎常務は「食肉加工で必ず出る動物性油脂の処理はどの工場も一番の課題。この燃料化は日本初のエコ活動で付加価値をつけ、より競争力のある商売の取組」と話す。同ポイラーはグリーンエナジーにより来月、実用新案登録される。

## 冬を遊びつくせ

さかえ倶楽部スキー場  
ポスター 関東、関西へ



卒業生や校区住民ら250人が参列した津南原小閉校式典

一新した。昭和34年に89人いた児童も、校区の過疎化が進み年々減少。今年度は11人となり、来年度から三箇小、津南小との統合が決まった。

式辞で小林町長は「思い出は尽きないが、新たな出発、旅立ちに向けての決意

の目。より充実した学校へのスタートであることをしっかりと見守り、総力をあげて期待に応えていきたい」と述べた。若井校長は「地域に支えられ、216人の卒業生が巣立ちました。地域の方々の熱い思いや願いは決して消えることはありません。校歌に込められた願いを受け継いでくれるよう願っています」と思いを語った。藤ノ木常雄後援会長は「今後、地域に大きな声援を寄せていただき、多くの子どもたちの声が聞けることを願っている」と話した。

同校では新型インフルエンザ感染を考慮、全校児童が揃った3日前に、校舎への思いを語った映像をDVDに録画。その映像を式典で写した。「地域の思い出がいついばい詰まった1年を振り返ります」と運動会やクリスマス行事などが次々に映し出され「楽しい学校生活を過ごして来たことは忘れることばありません」

## 新年文芸募集

【一般の部】 【小中学生の部】

**写真**  
●テーマ自由・白黒、カラー自由  
選者 遠田誠也氏(原展無鑑査作家)  
◎キャビネ以上、四切まで  
◎裏面に画題、住所、氏名を記入

**詩**  
テーマ自由  
選者 江口セイ子氏(コスモス文学新人賞作家)

**短歌**  
新年詠および雑詠  
選者 萩原光之氏(短歌誌移丘 選者)

**俳句**  
新年詠および雑詠  
選者 村山砂田男氏(日本文学协会会员)

●応募点数…各部門1人3点まで。入賞者に本社賞贈呈  
●住所、氏名、電話番号を明記のこと

締切 **12月10日必着**

〒949-8201 津南町陣場下 TEL.(025)765-2215  
津南新聞社「新年文芸」係